

登録コード	L1331000	開講年度	2026				
担当教員	木村 宏人			副担当			
授業科目	文化情報論基幹演習						
英文授業名	Cultural Informatics: Basic Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・2時限
講義室	人文213演習室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			社会学の基礎知識を身に付け、社会に問題意識を持つことができるようになる。			
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			文献講読の発表や議論を通じて知識や思考を他者と共有することができる。			
授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	社会学的な研究を実施できるようになるために、社会学領域の入門書と論文の文献講読を行う。発表とディスカッションを通してより理解を深める。						
授業計画	1 ガイダンス 2 文献講読（家族とジェンダー） 3 文献講読（市民社会と公共性） 4 文献講読（階級・階層） 5 文献講読（教育と労働） 6 文献講読（都市と地域社会） 7 文献講読（メディアと文化） 8 文献講読（環境と科学技術） 9 文献講読（エスニシティ） 10 論文発表（3年生） 11 論文発表（3年生） 12 論文発表（3年生） 13 論文発表（3年生） 14 研究計画の発表（3年生） 15 まとめ、授業アンケート						
成績評価の方法	授業中の取り組み（50％）、課題：毎回の読書コメントと発表担当のレジュメ作成（50％）						
成績評価の基準	卓越している（90％以上）：社会学的な問題関心と基礎知識をもとに、自身の研究を主体的に進めることができる。 かなり上にある（80％以上90％未満）：社会学的な問題関心と基礎知識をもとに、自身の研究テーマを設定し、論理的に説明できる。 やや上にある（70％以上80％未満）：社会学的な問題関心を深く理解し、社会学の基礎知識を身に付けることができる。 合格水準にある（60％以上70％未満）：社会学的な問題関心を理解し、他者と共有することができる。						
事前事後学習の内容	文献の熟読とレジュメ作成、授業後の知識の整理、自身の研究の実行（3年生）						
履修上の注意	受講生の人数や関心によって取り上げる順番や内容が変更することがある。						
質問、相談への対応	授業前後にお願いします。時間を要するものは別途対応しますので、事前にメールで連絡してください（メールアドレスは初回授業時に示します）。						
教科書	盛山和夫・金明秀・佐藤彦彦・難波功士編著、2017、『社会学入門』ミネルヴァ書房。						
参考書	友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編、2023、『社会学の力 - 最重要概念・命題集 改訂版』有斐閣。						